



コンフェレンスコール用記録

GE - General Electric 2006 年度第3四半期決算説明会

開催日時：東部時間 2006 年 10 月 13 日午前 8 時 30 分

“本記録には“将来予想”-つまり過去ではなく、将来に関する声明が含まれております。このような文脈のもとにおける将来予想は、当社が将来に期待する事業および財務業績をその対象とし、したがってこのなかではしばしば“期待する”“予期する”“意図する”“計画する”“信ずる”あるいは“であろう”という表現が使われます。“将来予想”声明とはしたがってその性格上、程度の違いこそあれ、不確かなことがらを扱うものであります。当社にとりまして、このような不確定要素で良きにつけ悪しきにつけ将来の業績に影響するものとして、金融市場の動向つまり利率および物資価格の変動、または自由裁量権を含む戦略行動、将来における統合や事業獲得、あるいは当社が奉仕している主要産業、つまり空輸、鉄道運輸業界、エネルギー産業、メディア、不動産および医療産業などの諸産業は、既述にのみ制限されることなくそれら諸産業の財務業績、かつまた当社の保険事業部分における予期しなかった損失、および政治、経済、財界、かつ競合的で規制的なことがらなど多岐にわたる要素に左右されるわけです。したがってこれらの不確実性によって、本記録中の将来予想に述べる内容とは物質的に異なる結果が帰結することもありましょう。ではありますが、当社はこの将来声明に対して、これらの変動を反映するための内容更新は起こりませんのでこの旨ご了承ください。”

Jeff Immelt (ジェフ・イメルト)
General Electric - 会長兼最高経営責任者

Dan Janki (ダン・ジェンキ)
General Electric - インヴェスタ・コミュニケーション担当副社長

Keith Sherin (キース・シェリン)
General Electric - 幹部副社長 最高財務責任者

コンファレンスコール参加者

Jeffrey Sprague (ジェフリー・スプレーグ)
Citigroup - アナリスト

Steve Tusa (スティーヴ・ツサ)
JPMorgan - アナリスト

Deane Dray (ディーン・デュレイ)
Goldman Sachs - アナリスト

John Inch (ジョン・インチ)
Merrill Lynch - アナリスト

Ann Duignan アン・デュイグナン
Bear Stearns - アナリスト

Robert McCarthy (ロバート・マッカーシー)
Banc of America Securities - アナリスト

Nicole Parent
Credit Suisse - アナリスト

Scott Davis
Morgan Stanley - アナリスト

Bob Cornell
Lehman Brothers - アナリスト

プレゼンテーション

オペレータ

みなさまこんにちわ、GENERAL ELECTRIC 2006 年度第 3 四半期決算説明会によるこそおいでくださいました。「オペレータ指示」この会議は録音されておりますので、その旨ご了承ください。ここで本会議のホスト、インヴェスタ・コミュニケーション担当副社長 DAN JANKI をご紹介いたします。ではどうぞ

Dan Janki - General Electric - インヴェスタ・コミュニケーション担当副社長

ありがとうございます。みなさま、本日はようこそ。JoAnna Morris (ジョーアン・モリス) と私が本日のホストをつとめさせていただきます。みなさまは 6 時半に出されたプレスリリースをすでにご覧になったかと思います。それと本日のプレゼンおよび補助資料は当社ウェブサイト WWW.GE.COM/INVESTOR に用意してございます。ウェブサイトをご覧になりながら本日の手順に沿っていただき、またはダウンロードして印字し、参考としてご覧になるのもよろしいかと思います。

いつも申し上げているとおり、本日のプレゼンも将来予想声明に触れますが、これは現在の世界状況および経済環境にもとづいたものです。したがってこの主題には変更が生じます。したがってご提供する情報を見るときには、この点を念頭においてくださいますように。本日は第 3 四半期の収益に続いて第 4 四半期の見通し、その後に質疑応答をまいります。これは当社の会長兼最高経営責任者 Jeff Immelt および上級副社長兼最高財務責任者 Keith Sherin が担当いたします。前置きはここまでとし、でははじめましょう。Jeff、どうぞはじめてください。

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

ダン、どうもありがとうございます。まず第 3 四半期における当社の良好業績に触れますが、これを会社を囲む環境面から見てゆきます。当社の製品およびサービスに対する市場動向は非常に強力な推移を示しています。経済基盤は強固です。これはグローバルな規模のインフラ経費注入によって活気付けたものです。世界各地の資本市場にはすばらしい成長が見られ、企業資金量もまた良好であり、かつ米国消費能力にも強力なものが見られます。

毎日がインフレとより高くなる利息への対応に費やされているわけですが、当社の事業モデルは重要な要因への対応を可能にできました。難関要素としてプラスチック部門があり、これは価格がインフレを相殺できないという問題を抱えているわけで、私どもは現在ここに焦点を据えて取り組んでおり、来年には向上が期待できるでしょう。業績概観はこのような環境の下で非常な強さを示しています。2006 年度末のありかたは好ましいものであり、かつこの傾向は 2007 年にも続くでしょう。

主要 5 部門の業績測定基準を四半期として見てみますと、すべてに好ましい向上が見られます。成長からまず触れてみますと成長には目覚ましいものが見られ、それが強力な傾向を支えています。本四半期の収入は 12% 向上しました。同じく資産にも 12% の向上が見られました。収入向上は 14% で計画通り、また安定した強さで継続しています。総合投資収益率と操業利益、粗利率も拡大途上にあります。総合の資本収益率は 180 ベーシスポイント、粗利率もまた 30 ベーシスポイントと、プラスチック部門で向かい風にさらされているにもかかわらず拡大を継続することができました。さらにキャッシュフローも前年同期に比べて 26% の向上を見ました。これによって当社の株買取りがさらに加速的となり、期待どおりになっています。会社にとりまして、主要業績判断基準はいずれも引き続き堅調に動いています。

私どもは常時、長期戦略で動いております。この点は過去にも触れてきた点であります。この点で鍵となっているものはよい事業を持ったポートフォリオで、私はこれが 2006 年度第 3 四半期に現れたと信じます。インフラは当社収入の最大源であり、20% を見せてさらに強力な概観を見せています。NBC が立ち直りを見せ、また 2006 年度第 4 四半期に立場を強化し、これが 2007 年度に持ち込まれるでしょう。当社の成長プラットフォームは 13% の伸びを見せています。サプライと先端資材など成長のはかばかしくない分野から手を引くことはすでに発表しており、これによって事業構造をさらに好ましいものとして、将来に対する立場の強化をはかったと信じます。

私どもの事業執行ぶりは向上し、したがって拡大する粗利率と総合資本の収益率向上にそれが反映されています。セグメント全体の利潤成長は二桁の成長ぶりを示しました。当社の産業事業 4 つのうち 3 つは操業利潤率を拡大しています。NBC のゴールデンタイム視聴率は 15% の伸びを見ました。ROTC 拡大はすでに申し上げたとおりで、またプラスチックは異常なインフレの波を受けましたので、これは今後も注意をもって見守ってゆかねばならない分野であります。

成長という観点から見ますと、当社は予測可能かつ可視性ある成長を遂げています。総合受注は 15%、年初から今期は 22% の上昇です。有機的成長は 7 期連続で最大 10%、GDP の 2 から 3 倍に及ぶ数値であります。もっとも重要なことからはサービス成長が引き続き強含みに推移している点で、ここでも GE チームの堅調ぶりには変わりはなく、副会長レベルでのリーダーシップ推移にも将来の見通しにも、非常に強固なものがあります。社内での大きなイニシャティヴとしては、成長を過程としてみるという点があります。当社は目標を GDP の 2,3 倍を行くこと、有機的成長に据えてきましたが、今期にあっては有機成長 10% が果たされました。このレベルが 7 期連続しております。これは卓抜したプロセスとテクノロジーの偉大さに負うところがあります。当社には強力なテクノロジーとサービスがあり、勝利の度合いを加速しています。

航空部門には多大な手持ち注文があります。インフラ部門はおしなべて大きな手持ち注文をかかえております。医療部門は引き続き非常に強固な製品路線に支えられています。このような製品手持ち注文があつて、それを来年に向かって行くという点は非常によいことと考えます。当社の画期的な着想は、年間 20 から 30 億ドルの追加成長をもたらすでありましょう。現在収入に繋がる 66 項目の画期的な着想があります。商業的卓越さが当社に市場占有率の増大をもたらしております。当社の金融サービス垂直資産成長は 10% を超えました。NPS および Lean はともに顧客に対する成功度を押し上げ、オリンピックや NFL 競技を中心にした販売努力も NBC 関連以外のところで 10 億ドル以上の財入をもたらしました。グローバルな成長も加速的に伸びています。

開発国での成長は 22% にのぼり、会社内部においては多様多岐にのぼるアイデアと資産が存在し、これらは将来にわたる現在の成長を推進するものと考えます。ではここで Keith に代わって貰い、彼から財務面を説明いたします。私は後ほど戻させていただきます。しめくりをいたします。

Jeff、どうもありがとう。ではまず注文の面から話題を展開しましょう。Jeff も触れていましたように、第 3 四半期は堅調な動きを示し、左側に示すものは主要機器で、これは 220 億ドル、15%の上昇がありました。およそ 850 億ドル、16%の上昇でこれを事業ごとの結果で見ますと航空分野、石油およびガス、エネルギー面に非常に堅調な伸びが見られます。手持ち注文は 300 億ドル、26%上昇の強力なもので総合は全面的インフラ、受注が 57 億ドルで大型機器に 21%の上昇が見られます。金属サービス関係にとつての今期の伸びは目覚ましいものがあり、注文は 80 億ドル、18%の上昇であります。再度申し上げますが、事業面を見ますとすべての分野にわたって非常に強固なものが見られ、インフラがサービス注文上昇 21% をもってこの傾向を先導しております。ここではサービスのよい、大変な業績の四半期だといえましょう。

右側は流れを示し、これは当社の平均日ごと注文率を有機ベースで示しています。これは四半期ごとに示したもので、当社は 7%の上昇であることがわかります。これは年間を通じた当社のありかたに一致します。二桁の業績および消費者産業事業は電気機器の 11%がリードし、13%の上昇がありました。プラスチック部門ですがこれは 1%下落と、自動車業界からのプレッシャーを感じています。量は 4%上昇であることがわかりいただけるでしょう。6 の値下げがありまして、当社ではここから多少の恩恵をこうむって、このような結果がもたらされました。

しかしながら全体的には、これはすばらしい受注の四半期だったといえるでしょう。第 3 四半期は 15 の上昇で年初より現在までは合計 22%、これが引き続き当社の手持ち注文積み上げ最高 21%能力を第 3 四半期末までに駆り立てるでありましょう。つぎに金融サービス面の主核を見てゆきます。左側をご覧くださいますと、ここにふたつのことがらが記載されています。青い棒は純収入でして、これは当社の顧客収入マイナス平均資産の割合としての利子経費であり、緑の棒も同様、平均資産の割合として見た損失を引いた純収入です。この緑の棒はリスク調節マージンで、ご覧のようにこれは去年ともまた第 2 四半期よりも下がっていますが、これが市場資金量の働きというものでして、これからこのようなマージンプレッシャーは継続するでありましょう。ですが当社の損失は従来からの歴史的な低さを維持するでしょうから、ポートフォリオは健全です。当社は資産増大と生産性の向上を実現することにより、収入増大を図ってゆくことができます。

当社諸事業の概観はこのマージンとの対応にかかっています。続くページでこれについての数字を挙げてまいります。右の欄をご覧くださいと、資金ポートフォリオに 30 日の遅れがあることがわかりますが、この非常にポジティブな損失状況は今後も見られるでしょう。GE 支払い遅滞は青い棒で示されていますが、これは前年同期比 9 ベースポイントの下落です。したがって、これは基本的に横ばいといえます。コマース資金は前年比 9 ベースポイントで、これもまた基本的に動きは横ばい、昨 2005 年第 3 四半期に戻るといふ、このようにして前例にない 1.24% という数字です。再度指摘しますが、ポートフォリオ全体を通じ、遅滞によるプレッシャーはまったく存在しません。下方右側を見ていただきますと、機械器具サービス事業における稼働率が引き続き経済的な強みを示し、現在 Penske (ペンスキ) や貨車、トレーラー方面の事業全般を通じて 88%の稼働となっていることがわかります。ポートフォリオはその強固さを保持しています。

つぎに操業ポートフォリオ、利幅増大について述べますが、覚えていらっしゃると思いますが、第 2 四半期決算説明会で当社はおよそ——本年後半には操業利益増大があるだろうと申し上げましたが、本第 3 四半期にはこの言葉が実現できたことを私は喜ばしく思います。左の欄をみてくださいと、そこに第 3 四半期の決算が見えます。ここでは操業利益 14.7%の上昇が見えます。これは 30 ベースポイントの上昇です。

これを見ますと NBCU は予想通り、引き続きマイナス要因です。プラスチック業務もまた予測どおり、最悪です。これは第 3 四半期率で 20 ベースポイントかかります。ここで、そのときすべきだと思っていたことがらを実施していたならば、50 ベースポイントになっていたことでしょう。インフラは非常にプラスに動いておりまして、サービスおよび機械器具部門はともに第 3 四半期の業績に貢献しました。医療方面では新製品および生産性ともにプラスで、Industrial 面のバランスはプラスです。

第 3 四半期の業績には満足しています。ここには私どもがやると宣言したことがらの進捗が示されており、第 4 四半期も引き続き進歩と成長が期待されます。概観をみていただきますと、マージンが 100 ベースポイント以上、17.3% になりつつあります。産業面、医療面ともによい生産性が続くでしょう。インフラ方面には引き続き成果が見られ、それ自身のセグメントは第 4 四半期にはフルポイントを達成するでありましょうし、そうなれば当社の財政結果を加速しているインフラにおいても進歩は続行し、NBCU は明らかに黒字復帰、また第 4 四半期には NBC もまた黒字に転換することでしょう。

それは粗利益という面で、当社にとっての大型案件です。これは NBC ページですぐご説明いたします。プラスチック部門は第 4 四半期においても引き続き圧迫を受けることでしょう。総合的に申し上げまして、本年後半の操業利潤は順調に推進しており、第 2 四半期にこれは 16.2%の向上で 80 ベースポイントとなると申し上げたことにはなんらの変化はないわけでした、第 2 四半期に実現した利益率の進行には満足しております。

つぎに第 3 四半期の連結決算に触れます。左の欄に継続操業の要約を示しました。既報のとおり、収入は 409 億ドル、12%上昇というすばらしい成績でした。収益高は 51 億ドル、10%の上昇です。一株あたり利益は 0.49 ドルです。買戻しから 2.5 ポイントの利益

があり、これはあなたにとって一株当たりの利益 14% 増大し、キャッシュフローもまた年初来 185 億ドル、26% 上昇です。年総合として私どもが申し上げましたことがらに沿った順調な推移ぶりです。

税金です。これは 2 ポイント。第一に、税金は当社の以前の見込みに対して好調な推移です。GE の前 GECS 率をご覧くださいますと、当社では一時の国際税調停 7500 万ドルと当社にとってよい結果があり、これが第 3 四半期および年全体の予期しなかった率見込みの減少につながりましたが、GECS に関しては第 3 四半期率は第 2 四半期と同様でした。税率の低い外国からの稼働高による成長が当社を押し上げています。

右側でセグメントごとの第 3 四半期決算概要をご覧ください。第 3 四半期は、インフラにおけるすばらしいときであったことがここにはっきりとわかります。財入とセグメント利潤はガイダンスよりやや先を行っています。産業ならびに商業双方におけるセグメント利潤は、第 2 四半期ガイダンスをやや下回りました。これについてはすぐにご説明いたします。GE マネー、およびヘルケアー、ならびに NBC Universal はほぼガイダンスに沿った結果で、予想通りの動きです。全体業績はじつに目覚ましいもので、これにつきましてはそのいくつかをつぎの数ページでご覧に入れます。

第 3 四半期決算中にひとつ重要な分野がありまして、それをハイライトしてそこで何が起きたかを理解していただきたいと思えます。これは保険分野でして、みなさんもご存知のとおり、当社は第 2 四半期中に Insurance Solutions を Swiss Re に売却しました。したがって当社はこの分野には関知しないわけですが、昨年第 3 四半期に起きた台風とそれがもたらした衝撃、それに関連した相殺は本年にまで祟り、成長変化要因の足を引っ張っています。なぜかご説明します。

左の棒グラフをご覧くださいますと、昨年第 3 四半期 Insurance Solutions はカトリナとリタ台風のため、税引き後およそ 0.04 ドルの損失をこうむったことがわかります。右の棒は税引き後 0.04 ドルと読めますがこれは台風による損失を示したもので、Genworth セカンダリーからの 0.02 ドル増加およびそのバーチャル資金ならびにその他の資金からの増加が 0.02 ドルでこれは SES 株の一部売却で一番大きく、これが緑の棒の示す増加の半分を占めます。操業廃止の部分を見ますと、これはみな青色で示されていますが、Genworth セカンダリーからの 0.04 ドルおよび 0.02 ドルは操業停止の部分からとして示されています。そして緑は継続操業として示されていますから、私の考えではすべてのマイナスチャージは消滅したと単純に考えてよいでしょう。残りのプラス部分を昨年と比べますと、基本的に税引き後成長 2 億ドルがあることとなり、GE Capital Services は昨年の操業停止のために横ばいということになります。

これらの要素にもかかわらず、右欄を見ますと全体的にはすばらしい四半期だったことがわかります。これはみな、すでにご説明した財政結果に含まれますが、V に影響を与えたことは事実でありまして、GE Capital V を見ますとそれが 9 ポイントとなっていることがわかります。当社の台風影響調節後 V は 13% の上昇であり、4% ではないことがわかるでしょう。商業金融のほうを見ますとこの V は 10 ポイント影響を受けていますが、これはほぼ SES 増と見てよいでしょう。報告された V は 6% でして、16 で調節されました。本年には台風の影響は去年より少なかったとはいえ、再保険から抜け出ることが出来たことはまったくうれしい限りです。したがって今期は、後遺症の保険で左右された困難な報酬の最後の四半期といえます。Swiss Re Swiss Re の所有には当社は確信を持っています。すでに組み込まれた増大はおおよそ 3 億ドルに及びまして、私どもとしてはこれが保険比較を論ずる最後の四半期となることを希望する次第です。これが V にどのように影響するかを理解するのは重要なことですから。

キャッシュフローは 185 億ドル、年初以来 26% の上昇を見えています。GE Capital Services と産業貢献を左の欄をご覧ください。GE Capital Services の年初以来の配当は 32 億ドルにのぼったことが明らかです。これは実際には GE Insurance Solutions 売却による特別配当でありまして、通常の GECS は 40% にとどまっています。Industrial 側のキャッシュフローは年初以来 98 億ドル、7% 上昇です。当社は 20 億 900 万ドルの株買戻しを果たし、第 3 四半期での年初以来の株購入は 70 から 90 億ドル目標に対して 71 億ドル達成です。

右欄で、このキャッシュをどのように活用したかをご覧ください。これは 20 億ドルで始まった現金残高で、これに左欄からの 185 億ドルが CFOA に追加されました。配当 78 億ドルを支払いました。71 億ドルの株を再購入しましてこれが P と E になり、負債変化における純購入と売却処分で本四半期には 17 億ドルが残ります。キャッシュ関係の話はまことによいものです。年間総額として CFOA 250 億ドルを見込みましたが、合計で 15% の上昇が結果しました。

つぎに個々の事業分野に移る前に、第 4 四半期を要約します。このページの左欄に事業概観の枠組みが見えるでしょう。ここですばらしいニュースは、6 事業分野すべてがセグメント利潤成長を示しているというめざましい状況です。NBC は第 4 四半期には黒字転換を遂げるでありますからこれは NBC のページで詳しく申し上げます。それからこれを右側と一緒にしていただきますと、財入はおおよそ 440 億ドル、第 4 四半期には 10% の上昇で収益高は 6.4 から 6.6、11 から 14 への上昇で一株あたり利益は 0.62 から 0.64 が期待できます。前第 4 四半期のガイダンスとなんら変わりはなく 13 から 16% の上昇です。つぎは事業部門です。

最初はインフラです。インフラ事業にとって、これは特筆すべき四半期でした。財入をご覧ください。なんと 20%の上昇です。セグメント利潤は 24%増大。産業操業利潤は昨年の 17%に比べ 17.2%です。このセグメントの機械器具 部門がサービス以上の成長を遂げていることを考慮に入れても、これはすばらしい進歩であります。ここでの結果には驚くべきものがあります。

下方左の欄で事業結果を見ることができますが、ここに 1,2 ハイライトしたところがありますが、航空は収入上昇 5、セグメント利潤が 17 上昇しています。この財入は商業エンジンの出荷が大きく貢献しこれが 15%上昇、軍関係の出荷が低く、これで部分的に相殺され、これが 10%下落を見えています。商業予備品売り上げは 16%の上昇と非常に強く、これは当社のポジティブな商用エンジンおよび予備品価格付け、ならびに強力なベース経費生産性に負うところが大きく、操業利潤業績は 17%上昇と実にすばらしいものです。

エネルギー事業にとってはすばらしい四半期でした。これは年間全体としてお約束したものとマッチしており、年度後半の成長を押し上げています。財入上昇 37、セグメント利益が 28、当社のウインドシップメントは前年同期に比べ 3 倍の伸びでした。この事業は実に好成績です。ガスタービン部門は 11 から 43 と上昇。サービスは 13%の上昇。操業利潤成長はウインドの向上とエネルギーサービスによって押し上げられました。

石油とガスと交通運輸部門を見ますと、いずれも引き続き 2006 年度の時点において優れた業績をおさめてきました。石油とガスは引き続き、エネルギー価格におけるグローバルな需要に押し上げられましたが、交通運輸も同様な利潤をあげています。年初来の注文向上は 17%、ユニットの手持ち注文は 1700 ユニットにのぼっています。搬送に最善を尽くし、顧客サービスも迅速を極めて売り切れが続いている状態です。最後に航空とエネルギー金融サービスですが、これはいずれも同四半期の強力な主核成長を示しています。

ですから第 4 四半期のインフラを見たとき、引き続き二けた台のトップライン成長が続くでありましょうし、第 4 四半期が 100 ペーシスポイント以上の利幅拡大となれば、インフラ事業は 15 から 20%の操業利潤成長が予測できるわけであります。すべての面ですばらしい四半期であり、すばらしい展望です。

つぎは商業金融部門です。第 3 四半期も堅調な業績を遂げていますが、私が思うに、もっともポジティブな指針のひとつは資産の膨大な成長でしょう。資産は 18%の伸びです。資産成長はおよそ 210 億ドルのボリュームから来ました。これは広範囲にわたるもので、その判断基準は上方右の Capital Solutions、不動産、ならびに CFS を通じて見られます。

当社はまたその 3 分の 1、そこに見られる 18%の資産成長の 3 分の 1 が買収その他からポジティブにきていることを知っていますが、これは良い新式プラットフォームだといえましょう。セグメント利潤は 6%の上昇でして、これを私は保険の方のページで触れましたが、このセグメントの利潤が 6 の上昇をしているとき、仮に SES 収益高を除外したとしますと、第 3 四半期は 16%となって足手まといな SES を勘定に入れたとしても、年初来の商業金融は 17%の上昇ですから、今年は本事業にとってまったくとてつもない年であることは確かです。

商業金融について私が第二に強調したいことがらは、第 2 四半期の期末説明会のガイダンスとして、この方面では第 3 四半期には 10 から 15%の上昇があると申し上げた点です。あの時点では私どもは第 3 四半期には多大なトランザクションがあり、これが第 4 四半期にも持ち込まれるだろうと考えていましたので、これらの事業部門は実にすばらしい業績をおさめたわけでした、Capital Solutions も不動産部門とともに堅調な二桁成長、そして第 4 四半期を見れば、そこには引き続き強力な量と資産成長が見られるでありましょうし資産の質も安定して第 4 四半期の見通しはセグメント利潤で 20%以上、また事業全体も年間を通じ 51 億ドルの純収となり、すばらしい見通しであります。

第 3 四半期の Industrial 事業には明暗入り混じったものがありまして、全体の財入結果を見ますと 3 の上昇、そしてセグメントの利潤 10 の上昇、ですがこの事業は下降していることが下方左でわかりまして、これはふたつのまったく異なる話になります。まずは当社の消費者ならびに産業関係業務の C&I。ですが、いずれにとってもじつに卓抜した四半期でした。財入は GE Supply の処分を除けば 11%の上昇になります。ポートフォリオを通じた強力なトップラインです。Industrial は 16%上昇、家電具は 13%上昇、照明具 6%、私どもは高級分野で勝利しています。Monogram は 11、Profile も 13 とそれぞれ上昇です。株価も 1, 2 点上昇を見まして、このボリュームがどこから来ているのかを見ますと Home Depot と Sears の小売業務が 19%、そして契約も 6% の上昇を見ました。複合ファミリーは引き続きその強さを発揮しています。

産業部門は商業建設に押し上げられ、これはなかなか良いグローバルな話となります。アメリカ大陸は 13%上昇。ヨーロッパは 10%、アジアで 27%とそれぞれが上昇です。この事業はグローバルな支持を受けておりまして、C&I の操業利潤成長は改良価格からきており、これがおよそ 1%、また生産性にすばらしいものがあり、これが総合経費生産性の 6%を占めています。

東部標準時間 2006 年 10 月 13 日午前 8 時 30 分、GE - General Electric 2006 年第 3 四半期決算説明会

ではありますが、それと様子がやや異なるのがプラスチック部門です。ここは困難な四半期でした。プラスチック部門は私どもの計画から 1 億 2000 万ドルの目標外れ、第 2 四半期のガイダンスで申し上げたことから 5000 万ドルそれまして、その辺の事情をここにお見せしています。財入上昇は 1。ボリュームがないわけではなく、これは 5%の上昇です。これは価格からは利潤における相殺以上のものがありまして、5%の下降です。

電気製品にはかなりの成長が見られまして、これはテレコミュニケーション、消費者、中国とこれらが引き続き二桁成長です。これは自動車からの圧力で相殺されて 11%の下降、原材料のインフレは当社にとり、まったくもって殺人的なものがありました。ベンゼンは本四半期を通して 1 ガロン 3.71 ドルと 31%もの 上昇です。10 月中にはガロンあたり 4 ドルでして、現在この時点で 3.80 ドル。これは昨年この時期の水準に比べて 50%の値上がりであり、当社がこの業界において見る歴史的な高値といえます。私どもは値上がりを発表しましたが、このようなインフレ的状況を踏まえまして、第 4 四半期も同様に困難な時であることが予測され、昨年の第 4 四半期はおおよそ 2.20、本年第 4 四半期に対する予想もまた 20% の下降となっております。産業面の第 4 四半期をかいっまんで申し上げますと C&I の見通しは非常に明るく、プラスチックには引き続き圧迫、そしてセグメント利潤は多分 5 から 10%と見てよいでしょう。

NBC にとってはこれまた困難な四半期となりましょうが、期待すべきものがあることは確かです。私が思いますに、第 3 四半期の財入が 20%上昇、操業利益が 10%減少と強力な財入を説明する素材となっております、これはじつに映画と DVD に駆り立てられたものでありますので、これを昨年と対比してみましょう。映画の財入は 48%上昇で 3 億 5000 万ドルをやや上回り、基本的には本年の DVD 放映は 5 本ありまして、昨年は 1 本でしたから今年は DVD が非常に多くなったわけです。また、今年は国内映画館向け放映が去年の 6 本に比べて 8 本ありました。あと 2、3 の映画がありましてこれがトップラインに、ボトムラインでなくつながりましょうが、また NFL からの増殖的財入もありました。

操業利潤は 10%落ちました。基本的にはいつの年にもお知らせするのと同じプロフィールです。TV の主要局プロダクションは 50 落ちています。 昨年の前期はアップフロントでこれはよい知らせ、ですがこれは DVD と映画との好ましい影響とともに、劇場とのミックスによって部分的に相殺され、操業利潤は同期 80%の上昇となりました。残りのネットワーク業績にはすばらしいものがありました。エンタテインメント、ケーブル、MSNBC、 CNBC、Telemundo はすべて第 3 四半期にあがっています。

業績転換はもうすぐそこです。ここでは大きな進歩があると感じています。このチームの仕事振りはすばらしい。スタートからゴールデンタイムまでをずっと見てゆきますと、将来は明るいものがあります。Heroes and Studio 60、 30 Rock、 Friday Night Lights そして ER によるすばらしい演技など、みな好調です。 NFL もよい成果をあげています。ここでは昨年の Monday Night Football を 9%上回り、これが私どもに貢献してくれています。分散価格付けはおおよそ 4% の向上です。なかなかよいプラスのアップフロントです。エンタテインメントケーブル財入は USA、BRAVO とともに 17%上昇で、二桁の強いものです。

USA はまことにすばらしい四半期で、レーティングでもデモでも全部を通じてナンバーワンになっています。Bravo もあがり、視聴率最高の四半期となって、操業利益はエンタテインメントケーブルでおおよそ 23%の上昇となりました。

ニュースチームの仕事振りはこれまたすばらしいものでした。すこしここでの変化振りを見てみますと Brian Williams の 5 週間は夜の番組としてナンバーワン、それと Meredith Vieira と Matt Lauer と Today のチームも引き続き競争相手をリードしています。これは前年比ベースで人気上昇している唯一の朝のニュース番組です。ニュース番組全体の結果が好調です。

私どもはデジタルで多くの進歩を遂げております。また業界をリードする広告業者ともパートナーを組んで、ディストリビューション面で好調です。また Universal Parks とはウェブサイトとテレビのすばらしい協調によって 12 月には iVillage を打ち上げますし、ビデオのディストリビューションのために 50 のディストリビューション・パートナーとともに全国的なブロードバンド会社を立ち上げましたので、この方面では実により進歩が見られます。

すでに申し上げましたように映画のほうでは躍動的な上向き結果が見られ、第 3 四半期の利潤上昇 80%、これが第 4 四半期にも続行してゆくことでしょう。なお最後に GE Enterprise イニシアティブにもいくつかの成功を見ていることを付け加えたいと思います。ここで - ええと Jeff がオリンピックと NFL について触れましたが、当社では 10 億ドル以上の GE 持ちこたえが 2008 年オリンピックまでと期待しております。GE Finance とは非常な牽引関係を得ておりまして、NBC 財入との垂直接続は年初以来 19%の上昇です。

これらを全部第 4 四半期にいれますと、これは NBC にとっては大変な四半期となります。財入は 0 から 5 となることを期待しています。セグメント利潤は 10%前後に上昇、これが終了したときの報告を楽しみにしています。まったくよい黒字転換の話です。

東部標準時間 2006 年 10 月 13 日午前 8 時 30 分、GE - General Electric 2006 年第 3 四半期決算説明会

医療関係はこれまたすばらしい四半期でした。財入は 9 があり、セグメント利は 19 の上昇、このチームはすごいレバレッジを発揮しました。注文が非常に強くて 8% の上昇、これは機械器具とサービスの双方にわたっています。MR は 24% 上昇、超音波が 14、CT もまた 8 とすべて上昇でした。サービス側ですとその 9% が米国ならびに欧州とも契約財入からした。財入はテクノロジーで 10 上昇、バイオサイエンスが 5 です。これは広範な強みといえ、操業利潤は 1.5 ポイントの拡張、これはトップラインの成長とともに利幅の高いところの販売、新製品および強固な生産性といった要素に駆り立てられました。ここに見られる生産総合経費は 6% 近くになりました。

第 4 四半期には同様に強い機械器具とサービスと利潤、医療産業セグメントの利潤はおよそ 15 から 20 の上昇があると期待しますし、最後に GE Money にふれますと、これもすばらしい四半期でした。財入向上 14、利潤は 13 で資産も 15 とそれぞれに上昇、これはまったく有機的なグローバル成長物語といえましょう。この期の収益高成長は強大な主核成長からきています。アメリカは 33% 上昇であることがわかりただけでしょう。

ヨーロッパは 17% 上昇でしたアジアは事業と日本が引き続き軟調でして、これで相殺出来ましたアメリカを見ますと収益高は実に強い核の部分の成長で押し上げられていますプライベートラベルと販売金融が 15% の資産成長をとげましたが、これは米大陸全般および米国においてです

ヨーロッパの成長は目覚ましいものでした。ヨーロッパでの収益は中央部、およびトルコを含む東部ヨーロッパでの成長からやってきました。第 4 四半期の様子を見ますとグローバル成長の強さを基盤にしたところ、当社所有の資産の質、セグメント利潤 15% プラスの継続を見ることが出来ます。GE Money もなかなかよい見通しです。

Jeff に変わって貰う前に最後のページにかかりますが、ここで少しアップデートしたいと思いますが、これは第 2 四半期からのことがらです。これは第 2 四半期決算説明のときにお見せしたのと基本的には同じです。前にも申しましたとおり、左の欄を見ますと私どもが処分から 1 株あたりおよそ 0.04 の利得がありましたが、今日これをアップデートしますと、この収益に関連したトランザクションはすでに全部発表してあるということですので、それと左の欄には第 3 四半期中に GE Supply を Rexel に売却締めくくりました点をご覧いただけます。

この処分については税引き後の取得 0.01 ドルが実現したわけですが、Silicones Quartz の売却は 12 月には完了します。右の欄ですが数字はすでに申し上げたところと同じです。第 3 四半期中にリストラおよび関連の早期退職をも含めた経費として税引き後およそ 0.01 ドルがありまして、第 2 四半期にも申し上げたとおり本年には処分から来る利益がありますが、これはリストラ投資相殺以上のものがあり、これによって将来の収益のみならず、他のレガシー経費に利することは明かです。

では Jeff にかわっていただきましょう。

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

Keith、どうもありがとう。今年を締めくくるにあたり、年間が総合的な年であったこと、そして実に堅調にこれを完結しようとしているということが出来るでしょう。財入は 10%、収益高も 12% とそれぞれに上昇、CFOA は 250 億ドル上昇で資本全体の収益率は 18% を超えています。事業全体を見渡していただきますと、すべてが堅調であることがわかっていただけでしょう。産業面に見られる弱みはインフラと商業金融によって相殺され、余りがあります。年間総合のガイダンスは 1.97 ドルから 1.99 ドル、15 から 16% の上昇です。第 4 四半期に見たものと非常に一致しております。堅調な年を財入と EPS 成長の双方の見地から、またすべての重要な判定基準において切り上げ、終わらせていますので、私は進んでいる方向は正しいと考えます。

将来を現在私どもが立っている点から戦略的に見とおし、かつそれが今日の環境にどのように納まるかについて、私からいくつか指摘しておきたいと思います。第一に GE は 2006 年度第 4 四半期のみならず今後に向かった環境の中で、非常に良い立場に身をおいています。当社のインフラ環境は卓抜したもので、2007 年度には相当の手持注文があります。成長イニシアティブはうまく行っています。NBCU の黒字転換はすばらしいものがあると感じています。それによって 2007 年度の収益成長がさらに促進されるでしょう。

医療および金融サービスについても当社は非常に魅力に満ちたものであり、この環境の中でさまざまな事業に対してポートフォリオ改善のためにおこなった投資は非常によいところに身をおいています。第二に指摘したいことがらは、操業利潤率と総合資本に対するその投資収益の双方に対する操業レバレッジはいま始まったばかりだという点です。操業利潤率はこの先、最良のときがやって来るでありましょう。第 3 四半期は進歩のときでした。第 4 四半期にはさらに多くの進歩向上があるでしょう。拡大は今後も継続できつ、私どもはよい地盤にあります。

東部標準時間 2006 年 10 月 13 日午前 8 時 30 分、GE - General Electric 2006 年第 3 四半期決算説明会

強いキャッシュフローがあり、ROTC も拡大を続けるでしょう。最後に言及しますが、当社戦略を実施してゆくよい機会がやっています。私どもは緩やかな事業成長から規律をもって抜け出しており、より成長の目覚ましい事業分野に資本の再配備をおこなっております。この点は、現在の環境の中で私どもが自らの基盤を続けてゆく上の第一のものです。

再び申し上げます。私どもは今後ともやると申し上げたことがらにはずっと焦点を据えて行きますが、この四半期は当社の強化という意味でその真髄を示す代表的なものであったと思考する次第です。では Dan、君にボタンタッチして質疑応答に入ることとしましょう。

Dan Janki - General Electric - インヴェスタ・コミュニケーション担当副社長

Michelle、みなさんから質問をいただいでください。ありがとう。

質疑応答

オペレータ

「オペレータ指示」Lehman Brothers の Bob Cornell からまずどうぞ。ではお始めください。

Bob Cornell - Lehman Brothers - アナリスト

Jeff、まず大きな図からですが、あなたはしばらく前に環境は緩慢になっているといい、それに対してあなたは肉付けして行けるだろうといいましたが、GE がその見通しにどのように参画してゆくか、考えを聞かせていただきたい。

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

Bob、私の言わんとするところは、住宅にはじまって特に自動車産業に対する利率の与えたマクロ経済的な影響を君がちょっと見ただけでわかると思いますが、これは私は成長の鈍っている分野であると見ていますよ、だが Bob、家電事業のほうは君も長い間観察してきたものだし、当社でもそれに加わってきたのだが、小売収入は当四半期で 18%の上昇を見ており、伸びの鈍い住宅産業ですら 5 から 6%の上昇だったわけです。重ねて言いますが私のいいたいのは、利率が上がれば多少の伸び悩みがあるということなのです。全体の平均を見れば米国の消費者は依然として健全で、買い控えはしていないということです。

Bob Cornell - Lehman Brothers - アナリスト

そうですね。もひとつ確認質問です。Keith は商業金融事業が登場して、これは 6%の上昇であり、この四半期にはより大きな収益があると言いましたね、そしてなにかが第 4 四半期に持ち越されるということだった。それは第 4 四半期には完全な怪物が生まれる可能性を生むようだ。昨年第 4 四半期には商業金融面からなにごとかが抜け出すということだった。今年はものごとが動き回っている。この方面の事業は現在の時点でどれほど可視性があって予想可能なことがらなのか、こんなふうに動き回っているものから、どうやって収益に影響がもたらされるものなのでしょうか？

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

これは非常に予測可能だと私はいいたいですね。もし長期的な視野で見ると、収益高は四半期から現在まで 17%の上昇です。これは第 4 四半期には 20 から 25%に上っていると思いますよ。Keith は 2005 年第 3 四半期中のカトリナ台風の一時的相殺の影響について触れましたが、Bob、私が思うにですね、君がこれについて考えてみれば、当社は 25%という高い ROE(自己資本)、好調な資産成長、すばらしいリスク分散がありましたし、事業の実践のありかたは好ましいもので、位置基盤のありかたも将来に向かったものだといえます。

Bob Cornell - Lehman Brothers - アナリスト

オーケー。では今後も注意してゆきましょう。

オペレータ

次の質問は Citigroup の Jeffrey Sprague からです。どうぞ。

Jeffrey Sprague - Citigroup - アナリスト

どうも。みなさん、おはようございます。

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

やあ、Jeff。

Jeffrey Sprague - Citigroup - アナリスト

ここで手持注文について考えたときの利幅の可視性について少々突っ込んでみたいと考えていますがどんなものでしょう。それとまずは真っ先の問題としてエネルギーについて考えているんですよ。この点はやや停滞している分野ですよね。エネルギーのなかで第 4 四半期と来年はじめを見て行くと、この操業レベレッジでプラスに向いていきそうなその方面の原動力というのは何でしょう?まずは機械器具サービスの混合分野と、風力対ガスタービンについて触れることになるのではないかと思います。

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

第 4 四半期を見ていただきますと、第 3 四半期の財入成長の顕著なところで継続的な進歩があるのがわかると思います。Jeff、ここでは活発な市場活動が展開しているわけです。風力のほうは昨年比横ばいですから、今度の四半期は多分去年の同期とほぼ同じかやや高い 700、あるいは 715、720 単位といったところでしょう。これは利潤成長にはより比較性のある動きでして、風力単位で 11%の値上げがあるところから、ここでは好ましい比較があることがわかると思います。

ガスタービンですが、ここでは第 4 四半期にも第 3 四半期と同様の成長があることでしょうが、第 4 四半期にはサービスと機械器具にはさらにより混合バランスがあるでしょうから、われわれはエネルギー、航空、石油、ガソリンといったこのあたりのインフラ事業すべてが第 4 四半期にはセグメント利潤の利潤成長の 1 ポイント以上に押し上げることを期待していますし、そこで第 4 四半期には会社全体のセグメント利潤が 0.5 ポイント押し上げられるでしょうから、Jeff、可視性はかなり高いわけですよ。

Jeffrey Sprague - Citigroup - アナリスト

それはなかなかですね。Jeff、であなたにはポートフォリオについてのさらに大きな観点からの質問があるのですが。実際問題として会社分割といった方面では GESCO、Advanced Materials そして Insurance がかなり活発ですね。この流動性の高い市場ではあなたは買い側というよりはまだ売り側のほうですか、そしてただ外部レーダーの上か下かとしなければならないことがらのリストを考えているだけなのか、また現時点でのポートフォリオ位置づけはどこのか

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

Jeff、私が言いたいのはわれわれは常に戦略を実施する機会を狙っているということです。君の要点とするところについて言えば、資金量はその門戸を広く開けているのです。会社分割をしたいというのであれば、それはできないことはありません。事業買収はまだまだやりたいところですし、これは戦略の一部でして、その方面には注目しています。ですが私が言ったのは、これらは - われわれは全体の予想とガイダンスの範疇内にあるでしょうし、それが今年と来年に追求してゆくことがらだという点です。私は特に大きなことがら、途方もなく大きなことがらがあるとは思っていませんし、われわれがすることはなんでも 2007 年度として話したことがらを支持してゆくことは可能であって、それに対し潜在的に拡大増加を遂げてゆくでしょう

Jeffrey Sprague - Citigroup - アナリスト

東部標準時間 2006 年 10 月 13 日午前 8 時 30 分、GE - General Electric 2006 年第 3 四半期決算説明会

ひとつだけ手短かにフォローしたいことがあります。消費者面ですがね Jeff、平均バランスが上がるとか、あるいは消費者に関したことがらでなにかいいことでも早めの警鐘があるとか、遅延などが見えるとか、そこらへんはオーケーですか？

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

別段なにも見えていませんがね、Jeff。多少の判定基準を見ていただいても、すでに申したように米国資産は国内当社金融で 15%、400 億ドル近い上昇で、これは消費者事業と GE のお金です。遅延は 30 日に対して 4.4%対昨年第 3 四半期の 4.54 でした。これは 10 ベーシスポイントの下落です。

当社のクレジットについては小売業ポートフォリオを通じ、なかなかよいボリュームです。GAP は 18、Lowe は 13、Penney も 7 とそれぞれ上昇です。Dual のカードもなかなかの勢いです。Jeff もいったように、われわれは家電事業は小売も契約もひきつづき良好ですから、米国内での消費者金融面ポートフォリオは今日に値に至るまで警鐘はなにも響いて来てはいません。

Jeffrey Sprague - Citigroup - アナリスト

そうですか、どうも。

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

どういたしまして

オペレータ

つぎの質問は J.P. Morgan の Steve Tusa からです。

Steve Tusa - JPMorgan - アナリスト

どうもすまないんですが、私には商業金融に関する質問への回答が良く呑み込めなかったのですが。ここのところは私には Capital Solutions と Real Estate がなかなかの成績だったので、ほかのセグメントは期待に対して多少弱かったということのように見えますんですが。そこにはなにがあるのか、そこで他のセグメントとして動いているものがなんなのか、もういちど説明して欲しいのですが？

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

いいですよ。いちばんおおきなものは Corporate Financial Solutions 事業で、昨年第 3 四半期には SES の株の一部の販売からの収益を報告したのはここだったのですが、それは税引き後収入がおよそ 0.01 ドル目一杯でしたが、これは昨年第 3 四半期のカトリナとリタの台風からうけた圧迫で部分的に相殺がありました。これはまったく最大の要因で、そのためこの事業は基本的に横ばいでした。

Steve Tusa - JPMorgan - アナリスト

あなたはこの前の四半期にこれについてのガイダンスをしたので、このことは多分知っているはずでしょう。

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

そのとおりです。そういうことをいいました。で、もし君が 6 上昇と 10 上昇の違いについて見るのであればわかるでしょうが、この四半期の初めに期待していたことがらは排除されましたね。ものによりますが、当社でタイミングをコントロールできるようなトランザクションもたくさんあり、すでに申し上げたとおり第 4 四半期には 20%以上となることが見込まれ、まったく良好な第 4 四半期だったわけです。

東部標準時間 2006 年 10 月 13 日午前 8 時 30 分、GE - General Electric 2006 年第 3 四半期決算説明会

Steve Tusa - JPMorgan - アナリスト

これらのなかには、この四半期中に発表されたものがありますか？

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

いいえ、なにもありませんが。

Steve Tusa - JPMorgan - アナリスト

オーケー。

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

Steve、とりたてていうほどのものはなにもないですよ

Steve Tusa - JPMorgan - アナリスト

オーケー。最後に Dave、Jeff、GE では主要な人員が多く去って行っているという噂がありますが。これについてなにかひとこと。ここには -- より多くの人員更迭を見越すべきなのか、それともそれは最近あったのか、これについてなにか言葉がありますか？

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

Steve、うちではトップ幹部 500 人の保留率は 97% くらいですから、時々人が去っていることは確かです。Dave Calhoun が辞めていったときはそれについて多くの話をしましたが、このときの引継ぎは順調なもので、当社の幹部人員保持率は歴史的にも少しも変わっていませんから当社の業績についてはひとびとは良く知っていると思いますし、これも究極的にはひとがどのように評価され、どのように報われているかということですので、私はそれはうまくいっていると信じています。

Steve Tusa - JPMorgan - アナリスト

オーケー。

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

私は当社の体制は強靱だと思います。

Steve Tusa - JPMorgan - アナリスト

それは素晴らしいことです。どうも。

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

どうもありがとう、Steve.

オペレータ

つぎは Goldman Sachs の Deane Dray が質問に立ちます。

Deane Dray - Goldman Sachs - アナリスト

どうも。おはようございます。プラスチック部門の操業戦略変更について多少掘り下げたいと思います。この業務では有用品は一線から下ろすということです、その辺の機密性のあるところを順序だてて説明してほしいのですが、Benzene についての機密性という意味での変更、焦点をハイエンド製品に据えていることからくる操業利幅目標、そしてもし有用品事業のいくつかからは手を引く、あるいはこれを一線から後退するということであれば、そこではプレキシその他のようなオリジナル路線開発能力にはなんらかの妥協が生まれるのではないかと考えられますが。

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

プラスチック事業にはレベレッジポイントが三つあげられます。ひとつは量、ひとつは価格付け、もうひとつは原材料です。私どもはこの操業の内部で、焦点等級とよぶものに積極果敢な注意を集中しています。この方面は実際には事業そのものより多分 50% は高い成長レベルにあり、量の成長は相当のものがあまして、この焦点等級は二桁成長になっています。グローバル基盤の全体の量的成長はそれ相応に強いものがありますが、北米では自動車関係が足を引っ張っていることは事実です。

価格付けの点ではわれわれは安定すると考えており、焦点等級が価格安定を助けるでしょう。ですからある程度のきざしはすでに見えていますし、2007 年度に向かっては価格付けには安定が生まれるでしょうし、上昇の潜在性もあるうえに、短期的にはベンゼンで相殺され、Keith がすでに触れたように歴史的な高さに接近し、絶対的にもそうですが相対的にはガソリンのガロンあたりの価格がそうですから、私はこの事業はむしろ特別事業とする戦略は今後も断行してゆくと考えています。私は当社がもしも有用品路線を斬るとしても、焦点等級開発能力には損傷は生じないでしょうし、これが当社戦略であってそれは今後も変わらないでしょう

Deane Dray - アナリスト

では操業利幅という点はどうなんですか、たとえば ABS 製品対焦点等級品の違いなど？

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

焦点等級は多分 2 X になるでしょう。有用品側はそれ以上が考えられます。

Deane Dray - Goldman Sachs - アナリスト

それはなかなかのものです。それと A-380 遅延について、当面の質問と関係ないことがらですが、その他の点でももう少し明らかにしておきたいのですが、Boeing 事業はエンジンと金融の側面がいずれも黒字転換になることが明瞭ですが、A-380 の遅延は何を示唆しているのでしょうか？

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

これが大きな金融面の影響をもたらすことは別段ないでしょう。いずれのプログラム開発もスローダウンさせます。Airbus はそのタイミングがどんなものであれ、それに向かって仕事を成就してゆくでしょうし、当社も出来る限り協力して行きます。当社は合計でおよそ 1 億ドルの在庫をすでに持っていますし、取引もし、金融事業からはとりたてていほどの影響も持っておらず、したがって全体的には非常に管理可能なものでありますから、当社は Airbus が世の中に早急に送り出されるように協力して行きますが、短期的には当社はおそらく A-380 レベルでのスローダウンをこうむるでしょうが、それもまた Pratt & Whitney との合併事業なのです。ここでのエンジン事業には当社はわずか 50% しか関与していませんので、その点でもここで起こりえる影響を吸収する助けとなるでしょう。

Deane Dray - Goldman Sachs - アナリスト

東部標準時間 2006 年 10 月 13 日午前 8 時 30 分、GE - General Electric 2006 年第 3 四半期決算説明会

それはなかなかのものです。どうも。

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

どういたしまして。

オペレータ

Merrill Lynch の John Inch さん、あなたの番です、質問をどうぞ。

John Inch - Merrill Lynch - アナリスト

おはようございます。

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

おはようございます John。

John Inch - Merrill Lynch - アナリスト

Jeff、あなたが EPG の説明をした際のことで、私はスライドで税金と収益高予想をまた見たのですが、差分がおよそ 0.02 ドルです。こういうことは予測の困難なものであることはわかっていますが、産業部門の業務では 0.04 ドル台くらいだと思うので 0.02 ドルは資本と低めの税率からだと思いますが、2007 年度に向かってゆくときに、これは相当の向かい風と考えるべきか、関心を払うべきことがらなのか、それともあなたはポートフォリオ内で機会主義的に、今年 0.06 ドル以上だったような概観を呈している収益とすべきと考えているのか、その辺の考えはどうなんですか？

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

John、収益は現時点、リストラに回ると考えます。過去には確かに保険備蓄で逆風を経験しましたが、これはおおかた本年で終わりました。恩給は足手まといであるといえるでしょう。恩給と早期退職金は足を引っ張っています。このレベルは来年にすべりこみますが、私どもが今やっているのは - 当社では一種のリストラプログラムを始めまして、将来での収益は改善された長期利潤を会社にもたらずでしょう。それはすでに第 3 四半期、第 2 四半期、第 3 四半期、そして第 4 四半期から来年へと継続するでしょう。

John Inch - Merrill Lynch - アナリスト

オーケー。では Keith、第 4 四半期に対する産業および資本の税率ガイダンスはどうなんですか？

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

John、年初以来の実際の税率を第 3 四半期で見えますと、これは経理のルールからいって年度全体の予想であることがわかるはず。その年度中の年初以来の全年率予想は当局のルールにのっとっておこなわねばならないので、第 3 四半期の年初以来の産業面を見ますとこれは 22.5、第 3 四半期の年初以来の GECS は 12 前後であることがわかるでしょう。

John Inch - Merrill Lynch - アナリスト

それは第 4 四半期に続くということですね。

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

それが現在の経理ガイダンス要求事項です。

東部標準時間 2006 年 10 月 13 日午前 8 時 30 分、GE - General Electric 2006 年第 3 四半期決算説明会

John Inch - Merrill Lynch - アナリスト

結構です。どうも。

オペレータ

次の質問は Bear Stearns の Ann Duignan さんからです。

Ann Duignan - Bear Stearns - アナリスト

おはようございます。

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

おはよう、Ann。

Ann Duignan - Bear Stearns - アナリスト

Gas Turbine についてもう少し色付けしていただけるとありがたいのですが。この 43 ユニットというのはどこに出荷されたのか、このセグメントの価格付けについて、そういったことをもう少し教えてくれませんか？

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

いいですよ。総合でこれはほとんどすべて海外で、中近東とかアフリカ向けです。米国向けはわずか 2 ユニットです。価格付けという点では、第 3 四半期の新ユニットに対してはおよそ 2% 落ちましたが年度中としては横ばい、第 3 四半期は年初以来です。ウインドは、これは別話です。ウインド注文については 11% の値上げでサービスは上昇 12。価格付けについては全部を通じ - ポートフォリオ全般を通じて上々といえるでしょう。これらのユニットはすべて海外向けです。タイ国、韓国、カタール向けもありました。

サウジアラビアは 6、ナイジェリアが 7、中国もなかなかで 5 または 6 ユニットとこれらが大きいところです。海外の成長はなかなかのものがあありますが、米国内ではわずか 2 でした。

Ann Duignan - Bear Stearns - アナリスト

ウインドのセグメントを多少フォローアップしたいのですが、このセグメントは来年から先のタービン搬送の手付金をチャージしているということを聞いていますが。これは 2007 年末には製品に対する税控除が期限切れになるという事実となんらかの形で関連しているのか、そしてまた一時変化があるのではないかと懸念していることによるのか、あるいはサプライがきついこととリードタイムが長いためということに過ぎないのか？

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

うちではテクノロジーには多大な投資をしています。数年前にこの事業を買収して以来、製品の改善は実にめざましくよい仕事をしてきました。知ってのとおり、グローバルに再生可能資源ということがらに対しては規制当局からも消費者からも非常な需要がありますし、製品の質ということからもグローバルな需要という観点からも、価格付けはより強固になっておりまして、また通常の契約条件の一部として当社に対する支払いの面での進歩があるはずで、これがサプライ連鎖を積み上げてゆく助けになるでしょう。このようなダイナミックが側面が現在当社において進行しているわけです。

Ann Duignan - Bear Stearns - アナリスト

で、このような手付金が、明らかに 2007 年以降に PTC がなかった場合の会社に対する防衛になるわけですね。

東部標準時間 2006 年 10 月 13 日午前 8 時 30 分、GE - General Electric 2006 年第 3 四半期決算説明会

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

PTC がないという前兆はありません。ただし私どもの回答になにか欠ける面があったとしても、それはただいま存在していることがらと異なるものがあることを示唆していると考えて貰いたくありません。当社では PTC に対する予備費がなくても注文を入れている顧客があります。再生可能資源に対する需要と必要はそのようなものです。私はそれを非常にプラスなダイナミック要素と考えています。

Ann Duignan - Bear Stearns - アナリスト

そうですね、少なくとも長期的視野で見ればそのとおりです。では最後の質問を手早くします。第 4 四半期のプラスチック事業での、自動車生産あるいは自動車関係ボリュームに対する見通しを聞かせてください。

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

それはわかりません。Ann、それについてはあとでお答えできるかもしれません。

Ann Duignan - Bear Stearns - アナリスト

いいですよ。どうも。

オペレータ

つぎの質問は Banc of America Securities の Robert McCarthy からです。

Robert McCarthy - Banc of America Securities - アナリスト

みなさん、おはようございます。

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

おはようございます、Rob。

Robert McCarthy - Banc of America Securities - アナリスト

商業建築市場についてはあなたは本四半期には強いものがあったといわれましたね、そこであなたが見ているものについて、またこの市場の米国内における中期、長期の見通しについて、順序を追って色づけした見解を披露していただきたいのですが。

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

特に産業方面の動きにはかなり活発なものがあり、当社の注文が産業分野でスイッチギア、モーター、スイッチボード、コンポーネントなどが 19%あがっているのを見れば、当社の強さは広範にわたっており、すでに触れたようにグローバルに見ても広範にわたったものであることがわかりましょう。商業建築活動も活発だし、市町村の建築活動もそうでした、経済がこれによって潤うわけです。

Robert McCarthy - Banc of America Securities - アナリスト

東部標準時間 2006 年 10 月 13 日午前 8 時 30 分、GE - General Electric 2006 年第 3 四半期決算説明会

オーケー。では航空事業について話してください。本四半期には非常にボリューム転換が強く、ここでは非常に印象的な漸増がありました。そのあたりのミックスについて話して貰えるとありがたいのですが。

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

すでに触れましたとおり商業ユニットはじつに良好です。427 の商業ユニットがあり、15%の上昇でした。これはおもに CFM 56 でしたから搬出は好調、そして軍向けユニットは 122 ありました。これはおよそ 10% の下降ですが全体のサービスは非常な堅調で、これは明らかにミックスの助長につながり、予備部品、商業予備部品は 16% の向上を示しています。商用もサービスもいずれもプラスの価格付けで、航空事業は好ましいダイナミックで推移しています。

Robert McCarthy - Banc of America Securities - アナリスト

オーケー。では最後に NBC に関して質問します。ここにはなかなかいい黒字転換の見込みがあるようですが。ここではタイミングと管理の延長変更、ならびに引継ぎに対する多少の懸念があるように私には思われるのですが。これは人員という意味ではなく、そこになにか変化が見られるのではないかという観点からする質問なのですが、なにかこの辺で付け加えたいコメントがありますか？

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

Rob、別に懸念というようなものはなにもありませんよ。私はみなが一致協力して、この事業が第 4 四半期以後 2007 年に向かっての強力な財入源であり、かつ収益成長要因となるよう働きかけていると考えます。

Robert McCarthy - Banc of America Securities - アナリスト

時間をいただいてありがとうございました。

オペレータ

つぎに Credit Suisse の Nicole Parent が質問します。

Nicole Parent - Credit Suisse - アナリスト

どうも。

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

おはようございます、Nicole。

Nicole Parent - Credit Suisse - アナリスト

医療事業のほうですが、この四半期では利幅に非常に強いものがありましたね。そこでミックスのもたらす利点、バイオサイエンス、診断用器具、蛋白分離サービス間の相場の持ち合い放れといった観点からの財入条件について、それからこれがはたして Amersham 統合によって獲得しているものなのか、適切な率で 20%にアプローチしているのかといったことがらをお聞きしたいのですが。

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

東部標準時間 2006 年 10 月 13 日午前 8 時 30 分、GE - General Electric 2006 年第 3 四半期決算説明会

これは、私はかなりポジティブだと考えます。第 3 四半期であなたがいまあげたいいくつかの点で財入を見ますと Life Sciences が 8 の上昇で、これは蛋白分離も含まれます。医療診断のほうも収入は 4 上昇です。欧州は 7、日本は 10、臨床システムも 11 とそれぞれ上昇でした。医療 IT は 98% 上昇です。

この分野ではしていること全部が利益として動いており、また電子医療記録あるいは IT 事業も同様です。米国での機械器具は 4、同様にサービスも 5 と上昇。繰り返しますが、私は統合された事業はこんにちより一貫性のある創業ぶりを示しており、その利点も多々見られると考えています。このポートフォリオを通じ当社は製品開発を進めておりまいして、テクノロジー投資からは多大な利益を得ています。Jeff、君からここになにか付け加えたいことがあるでしょう。

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

Nicole、そこらへんが正しいところだと思いますよ。私はこれは真の医療事業における多角モデルだと思いますし、もし私どもがどんな事業経営をしているかを見たいのであれば、当社では R&D を拡大し、同時に G&A は縮小ということも出来ないではない、というのは当社は事業を完全に統合しておりますから Nicole、まあ言ってみればより優れた操業リズムを確立しているといえるでしょう。

Nicole Parent - Credit Suisse - アナリスト

結構ですね。宇宙航空事業の大まかな図ですね。では商業航空宇宙サイクルの健康度と長寿性について、あなたの観点を話してくれますか、それから逆につきの数年に向かってゆくときの防衛に対するあなたの見通しについてはどうでしょうか？

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

私がこの座についてからの 5 年間についていえば、私の見る限り、これは医療商業航空市場としてもっとも広範で健全な市場だといえましょう。米国の業者はより優れた業績を示しています。グローバルな見通しも強力です。当社は一持っているすべての飛行機は飛ばしています。持っている航空機の価値は拡大しています。

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

ですからこれは今日の状況の中では非常に強大な市場ですが、君が話しているのは 2009 年、2010 年のものです。ここは非常に競争の激しい市場です。

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

Nicole、それを越えたところで私は考えているのですが、エンジンという観点は短期、長期ともによい立場にあるし、また機体についての当社の立場もじつに魅力的なものがあります。軍のほうを見ますとここの成長はあまりあてにしています。これはまあいってみればそれが現実でしょうし、当社では - 次世代主力戦闘機については予算をもらっており、この方面の事業には引き続き投資はしますが、軍のほうでの成長はスローダウンすると見ています。

Nicole Parent - Credit Suisse - アナリスト

オーケー、それはすばらしいですね。最後に Jeff Sprague の質問についてフォローしたいのですが、2005 年の年次テーマはすごく大きかったですし、あなたはそのサイズと長所について話しました。NBC に対するあなたがたの立場はこれではっきりしています。そこでポートフォリオをあなたの経営陣が検閲するそのプロセスと頻度について話を伺いたいのですが、そしてええと、多分別のたずね方をしますが、プライベート・エクイティ市場の健全さを見たとき、中核産業対非中核産業について考えなおすようなことはありませんか？

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

東部標準時間 2006 年 10 月 13 日午前 8 時 30 分、GE - General Electric 2006 年第 3 四半期決算説明会

Nicole、私が言うことは、当社が持っているのは非常に団結心のある戦略プロセスで、これについては君もすでにその実施ぶりを見ていることでしょう。プライベート・エクイティー資金があるからといって、だからなにかを売するというわけには当社はいかないのですが、大きな事業でこちらが中核以外として考えるようなものの獲得機会があり、それがたまたまサプライとか進歩的資材であるならば、はたしてそれがプライベート・エクイティーとして当社が行う最後のトランザクションだとは私は考えませんよ。ですが結局は戦略が何にもまして優先します。

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

この夏を通して私たちはすべての成長ぶりを見てみました。すべての事業を見て、戦略的見通しをたてました。テクノロジー、人口動態、産業の駆動力、収益成長率と収益率というふうにしてすべてを見てゆきまして、これはどの四半期でも決算説明会で更新するのですが非常に完璧な戦略プロセスでして、この間当社の指導陣と取締役会とのあいだには非常に多くの会話が交わされ、会社の価値を改善し、このために非常に多くの活動を集中したわけですが、努力に見合うだけの成果があったと考えています。

Nicole Parent - Credit Suisse - アナリスト

結構ですね。どうも。

Dan Janki - General Electric - インベスター・コミュニケーション担当副社長

Michelle、あとひとつだけ質問を受け付けます。

オペレータ

どうもありがとう。Morgan Stanley の Scott Davis が最終質問をします。

Scott Davis - Morgan Stanley - アナリスト

みなさん、おはようございます。

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

やあ Scott。

Scott Davis - Morgan Stanley - アナリスト

まず新らしくて簡単なプレスリリースにひとこと。多少読みやすくなりました。

Dan Janki - General Electric - インベスター・コミュニケーション担当副社長

どうもありがとう。

Scott Davis - Morgan Stanley - アナリスト

やや前の話題ですが私はプラスチックについて多少触れたいのですが、その理由はこれがあなたがたにとって一番可視性の低いことがらのひとつのように思われるためです。どうも僕にとってわからないのはベンゼンとフェノールで、これが天然ガスから非常に剥離してしまっている点です。私はここでなにか見落としているのでしょうか?これについては以前に見ているということでしょうか?

東部標準時間 2006 年 10 月 13 日午前 8 時 30 分、GE - General Electric 2006 年第 3 四半期決算説明会

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

Scott、ここで起きていることがらとして操業中断がありまして、これは現実でありかつ人工的な剥離で、市場においてこれが起きたので当社にも起き、こういうことは現在までに 3 回起きているのです。最近の石油課価格を見れば、ベンゼンの値段は多分 2 から 2.50 ドルというのが相場でしょう。ですが価格付けは 3.70 ドルです。こんなところが長期的には相場に近いでしょうし、将来にとっては多分よいニュースでしょうが、要するにこれがいまの状況です。

Scott Davis - Morgan Stanley - アナリスト

そうです。で可視性はないわけですか？

Keith Sherin - General Electric - 上級副社長兼最高財務責任者

それがまあ私どもはこれら製品のバイヤーでこの事業がうちの基本というわけではないのでして、それが当社のこの部門に不安定さを加えているわけです。

Scott Davis - Morgan Stanley - アナリスト

そうですね。Silicones 事業を売却したのは私にとって多少驚きでした。さきにあなたは、プラスチックの売却について考える気は毛頭ないというコメントをしました。私が驚いたというその理由は、この事業はもはや到底 GE らしいとはいえないものだからです。私が思うのに、多くの核心製品には本当の競合力をもったものがないのですよ。もう 10 年あるいは 15 年以前とは到底違ふし、アジアに相当のものがあるのは事実です。なにがプラスチックとの関係維持を推し進めているのか、そしてなぜあなたはこの事業を長期に保持していきたいのですか？

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

当社のすべての事業は戦略的見直しの対象になりますが、そこで排除されたものはなにもありません。ですがこれらの仕事をやって行く上では私は、自分たちが永遠にそれをしてゆくのだという気構えでやっています。うちではこれはみな、専念してやっています。それが私の回答でしたし、それが投資家のみなさんが私たちに期待することがらです。立ち入り禁止の事業などありませんからね。確かにプラスチックはこの 10 年の間に激変を遂げましたし、当社ではこのことがらは十分承知していますからこの点規律を持って臨み、これをやる以上は本当に親身になってやっていくという覚悟でいます。

Scott Davis - Morgan Stanley - アナリスト

たしかにそのとおりです。では最後の質問ですが、プレスリリースのなかにこういう文章があります。当社では長期にわたる利幅拡大のために経費ベースのリストラを開始しました。これは GE Supply と上級資材の売却に関連に関連した声明ですか、それともコストベースに対してより積極果敢なものがあって、そこで利幅ゴールを定める努力のためのリストラが進行しているということなのでしょう？

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

Scott、私は思うのですがね、これは John がさっき質問したことに戻ると思うし、もし第 3 四半期のサブライ収益を見るなら、これはみなリストラ、早期退職、会社リストラに行ったことがわかるでしょう。そこで君が第 4 四半期も同じ目で見ると、当社ではもし 2001 年が逆開発の始まった年だとすると、基本的にはうちではすべての利益でもってそれを備蓄強化とリストラに注ぎ込んだことがわかるでしょう。そこからまず 10 億ドル以上を恩給に向けましたから、これを現行期の操業で相殺しなければならないわけです。

いま私が言いたいのは、会社は利益を生むために売却できる資産は所有しているのであって、それらの利益はリストラと長期経費ベースの改善に向け、また会社の操業利益率とし、かつまた資本を成長の早くて利幅の高い分野に再配備しようとしているということなのです。私としては、これはみなよいニュースだと思っています。

東部標準時間 2006 年 10 月 13 日午前 8 時 30 分、GE - General Electric 2006 年第 3 四半期決算説明会

第 3 四半期はそれが積極的なスタートを切ったときだということです。第 4 四半期にはさらに積極果敢なスタートがあるでしょう。Scott、君も私たちのやり方は知っているでしょう。これはいっちょ大改革で行こうというわけではないのです。これは当社の事業内部でのすべての分野を通じた、操業利益率の改善を保ってゆくためのものなんですよ。

Scott Davis - Morgan Stanley - アナリスト

オーケー、結構です。みなさんどうも。

Jeff Immelt - General Electric - 会長兼最高経営責任者

どうもありがとう Scott。

Dan Janki - General Electric - インベスター・コミュニケーション担当副社長

ではみなさん、ありがとうございました。ご承知と思いますが JoAnna と私がこのあとも、今日はずっとみなさんの質問にお答えしてゆきます。なお本日の議事録と再生は当社のウェブサイトでご入手いただけます。ではどうもありがとうございました。

オペレータ

ではこれでコンファレンスコールを終了いたします。本日はご参加をいただき、ありがとうございました。もう切ってください結構です。